

保育者養成課程の音楽指導を考えるNo.4 : 模擬授業の実践を通して

著者	牧野 利子
雑誌名	川口短大紀要
巻	31
ページ	49-60
発行年	2017-12-25
URL	http://id.nii.ac.jp/1354/00001119/

保育者養成課程の音楽指導を考える No.4

— 模擬授業の実践を通して —

牧野利子

はじめに

本研究は、保育者養成課程における音楽指導のあり方を筆者の実践を通して考察することである。今回は、川口短期大学紀要第26号「保育者養成課程の音楽指導を考える No.3 — 音楽Ⅲの授業実践を通して —」の続編で、日本学校音楽教育実践学会第21回全国大会（2016年8月）にて筆者が口頭発表したものを加筆修正したものである。

保育者養成課程では、幼稚園教諭免許状・保育士資格を取得するには、必ず現場での実習が課せられている⁽¹⁾。養成課程での科目を修得することと現場での実習を経験してこそ、保育所や幼稚園での保育者としての実践力が整うのである。学生はその実習を、主に先輩保育者の現場を観察することから始まり、実際に現場を任されて行う責任実習を実践して終える。その責任実習の内容が、ほとんど制作に限られているのである。学生が実習で行う音楽行為は、朝の会等でピアノ伴奏をすることと、子どもたちと手遊びをすることぐらいである。実際に、責任実習で音楽の内容を実践する学生は、果たしてどれくらいいるのであろうか。本校では、実習後で行っている筆者の毎年のアンケートの結果では、ほんの数名いる程度である。

幼稚園や保育所では、必ず日々の活動の中に音楽に関する内容が行われている。音楽無くして、子どもの楽しい園生活はあり得ないといっても過言ではないであろう。それほど音楽活動の必要性は高いのに、なぜ責任実習の内容として音楽的なことを行わないのであろう⁽²⁾。

責任実習時に音楽的な内容を実践させるには、養成校ではどのような学びを経験させればよいのであろう。その解決の一方法として、模擬授業の最初に行う自己紹介を歌で行うことを課題とし、その実践について考察したのが前回の研究である。そこでは、慣れ親しんだ「カエルの合唱」や「きらきら星」のメロディに乗せて、生き生きと自己紹介する姿が確認でき、能動的に取り組んだことが明らかになった。

今回は、模擬授業本編の内容として「3歳児に初めて歌を教える」という設定で、二人一組で実践を行った。

研究の方法は、この実践の指導内容や指導方法の分析、実践者や被実践者（子ども役）の様子、学生の振り返り感想文（模擬授業直後・全授業後のアンケートや自由記述）などから考察する。

また、本実践の前に、先行研究として6本の論文を研究した。河北邦子（2012）は、自己評価と他者評価の観点に関するアンケート結果から、模擬保育の有効性を検証している。坂本暁美（2015）は、音楽を教えることに不安を感じる教師にとってデジタル教科書が有効なツールとなることを、教員養成課程の学生の模擬授業を通して明らかにしている。田中龍三（2010）は、模擬授業の利点として①指導案の作成、②音楽指導に関わる能力が実践力として働く、の2点を挙げている。小島律子（2013）は、模擬授業を仮説生成模擬授業と言うネーミングの方法で行うことが、理論と実践をつなぐ有効な手段である、と説いている。いずれの論文も模擬授業の有効性を説くものとなっているが、歌唱指導に関するものに特化してはいなかった。

筆者の本実践は模擬授業の内容を歌唱指導に限定しており、保育者養成課程での音楽指導の一方法としての模擬授業について考察する。

I 実践概要

1. 概要

実践校 K短期大学

科目名 音楽Ⅲ（選択必修）1単位

対象学生 こども学科 2年180名（1クラスを2分割したクラス授業、4コマ実施）

実施期間 平成28年度前期 第4回（5/6） 第5回（5/13）

使用教科書 「アイディアいっぱい保育者の音楽表現」金指初恵編著 大学図書出版

「うたってつくってあそぼう」幼児表現教育研究会 音楽之友社

学生の状況 約半数が入学時にピアノ未経験

実習事情 2年次6月の教育実習Ⅱ（幼稚園・小学校）の1カ月前

（1年次教育実習Ⅰ（幼稚園）・保育所実習・施設実習を終了、本授業後に2年次8月9日に保育実習ⅢⅣのどちらかを行う）

2. 模擬授業のねらい

本実践が、音楽に関する指導案作成・模擬授業実践者・園児役を経験することにより、6月に行う教育実習Ⅱの責任実習に向けての能力を高める。特に、音楽関係の内容を行う手立てとする。

3. 模擬授業内容

模擬授業の設定条件は、学生二人一組となり3歳児のクラスで初めて新しい歌を指導する場合とする。

第1回目の設定であるため、子どもに「楽しそうな歌だからもっと歌いたい」と思わせることが重要である。まずは歌のアウトラインを知らせることで十分であるから、一組3〜5分程度とする。きちんと歌わせようとして長時間かける必要はない、とした。3歳児が対象であるため、歌詞の説明には文字を使用せず、何かの具象物を用意したり動き（ふり）を付けたりしても良い。（毎時間学生に配布している「本時の予定」資料1・2を参照）

資料1 本時の予定 No.3 より抜粋（4月22日）

4. 模擬授業の説明（二人ひと組）→指導案の提出 5/6・5/13に実施

- ・3歳児に初めて歌を教える時を想定して行う。
- ・はじめに歌で自己紹介する
- ・ねらい、内容は？
- ・歌詞の内容を理解させるために、具象物（絵・ペープサート・ぬいぐるみ・パネルシアター等）や動き（手遊び・ダンス）、楽器の導入も考えてみる
- ・同じ題材（曲）で4歳児5歳児の場合も考えてみる
- ・歌う・鳴らす・動くの、どの活動を主とするのか
- ・いかに音楽的な意欲（もっと歌いたい）を引き出せるのか

資料2 本時の予定 No.4 より抜粋（5月6日）

「音楽あそびの模擬授業①②」

1. 模擬授業の前に→「アイディアいっぱい保育者のための音楽表現」参照

- ① 事前にすることは？
 - ・対象児，対象園について調べる
 - ・指導曲について調べ，練習する（「アイディアいっぱい〜」P64参照）
 - ・音程，歌詞は正しいかどうか
 - ・指導案の作成（指導要領参照）
 - ・指導のリハーサル（順序立てて行えること）
- ② 指導する際の注意点
 - ・態度（先生自身が楽しそう）
 - ・言葉（3歳児にわかり易い言葉と話し方）
 - ・その他（二人のやりとりがスムーズ）
- ③ 指導後の振り返り（評価）
 - ・良かったことと改善点

具象物の用意はできていますか？



II 実践結果と問題点（資料3を参照）

1. 指導曲について

模擬授業にて使用した曲は全部で42曲である。3拍子の曲は、「こいのぼり」「山のワルツ」「ぞうさん」の3曲で、その他は2拍子4拍子である。授業で扱っていなかった曲は、「むっくりくまさん」「棒が1本」の2曲である。「ミッキーマウスマーチ」「大阪のたこ焼き」は1年次の保育内容（表現・音楽）の手遊び発表時に学生が行った曲である。どの曲も日常的に歌われている曲であるため、子どもにとっては初めてではない場合があるが、学生自身が指導しやすいことから知っている曲を選んだと思われる。子ども役の学生はほとんどが知っている曲のため、すぐに一緒に歌ってしまう場合が多かった。

2. 指導方法について

① 歌詞指導のために行ったことは、もともとの設定の中に具象物を用意すると良いことを伝えていたため、パネルシアター（3）、ペープサート（6）、絵（3）などがあった。ホワイトボードに歌詞を説明しながら描く組が9組もいたのだが、このような方法はこれまでは無かったことで、今年度の特徴と言える。また、言葉だけで歌詞説明している組が16組もいたが、準備不足であったのか、無くては指導出来ると思っていたのかも知れない。他の学生の発表を経験した後に、具象物を使用した方が意味の理解につながることに気付いた、との記述があった。

② メロディの指導に関しては、ピアノを使用した組は6組のみで、その他は自分の声のみで行っていた。昨年筆者研究発表でも明らかになったように、学生の歌唱力（特に音程の不確かさ）は大変低く、今回でもメロディが不確かな場合があった^③。このままではメロディを間違えて覚えてしまう子どもが多くなってしまふことが懸念される。

③ 動きを伴う指導

指導曲の中に手遊び歌が17曲あり、この場合は歌いながらすぐに真似させる場合がほとんどであった。手遊びも言葉が伴うため、いきなり歌わせるのではなく、歌詞の意味理解のための何らかの手立てが必要と思われる。他の曲では、言葉に合わせて動きを付けたり手拍子を打たせたりした場合があった。何らかの動きが伴った方が楽しそうであった。

④ 指導の言葉に関して

全2回の1回目は、ほとんどの学生がテレビの歌のお姉さんのように話しかける口調になっていた。実習先の先生方から「一斉指導の場合は丁寧な話し方が望ましい」と指摘されたことがあり、ですます調にした方が良いことを伝えた。2回目の授業ではほぼ全員が直っていた。また、

説明の言葉が3歳には理解出来なさそうな語彙や早口になる場合があった。目の前の子ども役が学生ということが一因であるかもしれないが、3歳児に対する言葉の発達段階を想像して臨ませる必要を感じた。

⑤ 説明の態度に関して

相手役がともに学んでいる友人であるためか、始めは恥ずかしそうにもじもじしたり、声も小さい組があったが、友人の指導を見たり1回目の終わりに振り返りをして指摘したところ、2回目の授業では堂々と楽しそうな態度で説明するようになっていた。

⑥ いきなり立たせる場合が多い

曲の説明が十分でない場合でも、「では、皆さん立って下さい」と言って座っている子ども役をいきなり立たせて歌わせる場合が多かった。何をするために立つのかが相手に分からない時に立たせるのは指示が徹底せず、注意が散漫になり騒いだり立ち歩いたりする原因になりかねない、と思われた。

資料3 模擬授業で指導した曲と指導上の具象物など

指導曲名	数	指導曲名	数	歌詞説明	内容	数
こぶたぬきつねこ	12	ミックスジュース	1	言葉のみ		16
山の音楽家	5	ミッキーマウスマーチ	1	具象物	パネルシアター	3
こいのぼり	5	松ぼっくり	1		ペープサート	6
幸せなら手をたたこう	4	棒が一本	1		絵	4
あくしゅでこんにちは	4	どんぐりころころ	1		絵(ホワイトボードに描く)	9
かたつむり	3	とけいの歌	1		楽器	2
お寺の和尚さん	3	チューリップ	1		楽器(ヴァイオリン)	1
やぎさんゆうびん	2	ぞうさん	1		その他(服の色)	1
むすんでひらいて	2	しゃぼんだま	1		軍手	1
パンダウサギコアラ	2	グーチョキパーでなにつくろう	1		紙(象の鼻)	1
歯をみがきましょう	2	金太郎	1			
さんぽ	2	キラキラ星	1	動き	手遊び	16
カレーライス	2	キャベツの中から	1		ダンス	6
おもちゃのチャチャチャ	2	きのこ	1		その他	15
おべんとうばこ	2	かえるの合唱	1			
大きな栗の木の下で	2	おはながわらった	1			
アイアイ	2	おかあさん	1			
山のワルツ	1	大阪のたこ焼き	1			
焼いもグーチーパー	1	大きくなったらなんになろう	1			
森のくまさん	1	アンパン食パン	1			
むっくりくまさん	1	あめふりくまのこ	1			

メロディ指導方法		
アカペラ		73
ピアノ		8

■ は手遊び歌

Ⅲ アンケート結果より

1. 模擬授業と実習に関する実習直後に行ったアンケート結果

本授業の最終日に模擬授業と実習に関するアンケートを行った。この結果から、模擬授業を行ったことが学生にとってどのような影響を与えたのか、また、責任実習においてなぜ音楽的な内容を行わないのかが明らかになった。主な内容は下記のとおりである（資料4参照）。

資料4 模擬授業に関するアンケート結果（抜粋）（回答数 165）

1	模擬授業をしましたか	はい	150
		いいえ（欠席のため）	15
2	他の人の模擬授業で参考になったこと（複数回答可）		
	①指導方法		64
	②具象物（絵やペープサート）		33
	③言葉のかけ方		19
	④自己紹介の仕方		8
	⑤その他		9
3	実施して良かったと思うこと（複数回答可）		
	①先生役で指導したこと		43
	②指導案を作成したこと		18
	③具象物の重要性を体験したこと		18
	④園児役で参加したこと		6
	⑤その他		9
4	責任実習で音楽に関することを行いましたか		
	はい（歌唱指導2, 楽器作り4, リトミック1）		7
	いいえ（理由）		
	①思いつかなかった		23
	②園側の要望		23
	③音楽が苦手		19
	④製作をしたから		12
	⑤その他		14
5	音楽指導で不安なこと（複数回答可）		
	①ピアノ		105
	②指導法		84
	③歌		38
	④楽器奏法		23
	⑤その他		1
6	今夏の保育実習ⅢⅣへの音楽的な不安		
	①ピアノ		39
	②歌		6
	③指導法		5
	④その他		3
	ない		102

①模擬授業は大変参考になった

資料4が示すように、実際に模擬授業をしたことは指導案の書き方、先生役としての指導の方法、具象物の重要性、指導を受ける子ども側の気持ちなどが理解出来、これから責任実習を行う学生に大変参考になったことが記述から読み取れる。

②他の学生の模擬授業の影響

友人の模擬授業の実践を見たことによって、指導方法、具象物の種類と使用法、言葉のかけ方などにおいて大変参考になったと回答している。「自分では考えられない方法で指導していた」「いろいろな指導法があることがわかった」などの記述があった。

③責任実習で音楽的な内容を行った学生が7名いた

楽器を作って鳴らす(4)のほかは3名が歌唱指導、リトミックを行っている。これを実践した学生は、全員音楽が得意な学生である。

④音楽的な内容をしない理由に関する項目では、園側の要望(23)、自分が制作をしたかった(12)以外に、音楽的な内容を思いつかなかった(23)、音楽が苦手だからやらなかった(19)、という回答があった。

⑤幼稚園実習はピアノが心配であるという回答が105もあるのかかわらず、保育実習に関しては、音楽的な面の不安がないとの回答が102もいた。

2. 授業最終日に行った授業感想の中の模擬授業に関する文面より(資料5参照)

資料5にある通り、前期最後の授業感想に模擬授業に関する記述が大変多かった。これらから、2回の慌ただしい模擬授業にもかかわらず、学生の心には深く印象づけられたことが文面から読

資料5 授業感想に見る模擬授業についての記述

- ・歌の教え方の難しさを感じた。
- ・二人ペアだったので色々なアイデアを思いつくことが出来、楽しかった。
- ・相手に伝わるようにするには準備と工夫が大切だと学んだ。
- ・友人の発表を見てたくさん学び、周りの人と協力して保育を考える大切さを感じた。
- ・実習では模擬授業での反省点が役に立った。
- ・音楽を通して子どもとどのように関わっていくかを学んだ。
- ・どのように子どもに教えるか、分かりやすい方法を考えさせられた。
- ・実習前に出来て良かった。子どもの前で注意すべきことを学んだ。
- ・たくさんの曲の中から自分たちで曲を選び、楽しくする方法を考えた。
- ・友人のを見て、自分では思いつかなもので、将来に活かせると思った。
- ・人前に出たらどのようになるか分かって、改善点を見つげられた。
- ・先生役と園児役の双方から見る事が出来た。
- ・ねらいや流れを考えられなかったが、意見を出し合い満足いくものが出来た。

み取れる。実施直後の振り返りシートでは、自らの模擬授業の反省点ばかりが目立ち、マイナス的な記述が多かったが、今期最後を振り返ってみると、いかに心に残る経験をしたのか、各自で思い返していたことが確認できる。「今回の模擬授業はこの後に行う保育実習や来年からの現場に役立つ内容であった」との記述を読むと、直前の実習のことだけではなく、将来を見すえた経験をすると認識していることが分かった。

IV 考 察

本研究は幼稚園実習などの責任実習に於いて、なぜ音楽的な内容を実践しないのか、毎年行っている二人一組で行う模擬授業がどんな役割を果たしているのか、検討したいと考えた。具体的には、①学生は能動的に取り組んでいたのか、②責任実習に於いて音楽的な内容を実践する糸口になる得るのか、更には③模擬授業の意義についてである。

全15回の授業のうち2回使って行う模擬授業は、二人一組3～5分という短い時間であり、個々への指導も十分とは言えない状況である。もともとピアノ初心者が約半数いる本校の場合、はたして模擬授業をさせることが学生にとって有意義であろうか。もっとピアノ指導に時間を割いた方が良いのか、迷うところである。学生の実践を見ていると、音程は正しくなく、歌詞の意味も3歳児には分かりにくい説明の仕方、指導の態度は恥ずかしがってばかりいて、とマイナス面ばかりが目についていたのである。

しかし、今回、全授業を終えた時点でのアンケートや授業感想から、この模擬授業が学生にとっていかに貴重な経験であったことが明らかになった。

① 学生は能動的に取り組んだ

アンケートの結果より、模擬授業を行うにあたりどんなに時間をかけて準備をしたのかが明らかになった。二人で行うことにより、一人で行うより緊張感は少なく、共に知恵を出し合って指導案(資料6参照)を作成した。二人で先生役と子ども役になっての模擬授業のための模擬練習を行い、それをまた修正しなおした。名簿順に決めたグループであるため、必ずしも親しい間柄でなかった場合もある。それも、こちら側の意図でもあったが、何とか成功させたいという思いで、時間をかけて準備をしていた。歌詞の理解のために、それぞれ視覚的に訴える材料(パネルシアター、ペープサート、手描きの絵など)を制作した。また、今年度初めてであったが、ホワイトボードに絵を描きながら指導した組があったが、目の前で動くペンをじっと見つめる子ども役の学生の集中する様子に、思わずこちらも引き込まれてしまった。これらから、学生は能動的に取り組んでいたと言える。

② 実習において音楽的な内容を実践する糸口になる

資料 6

模擬授業指導案 「3歳児の歌あそび」

授業者名 ____組 番号____ 名前_____

1. 音楽で自己紹介
 方法：替え歌 その他（ ） 楽器使用：有 無
 内容： _____

2. 指導案
 月 日 ____組 男__名 女__名 合計__名

子どもの姿	ねらい		
	内容（曲名等）		
	準備する物		
時間	環境の構成 (場面図など)	子どもの活動	保育者の援助

本時の評価

今回、実際に責任実習で音楽的な内容を行ったのは7人であった。しかし、歌唱指導する際の方法がたくさんあり、特に、具象物を使用することが歌詞の理解に役立つことは、子ども役になったことで経験した。責任実習において音楽的な内容をしない理由が、自分が制作をしたと思った、幼稚園側の要望が制作であった以外に、音楽をやろうとは思わなかった、音楽が苦手、指導方法が分からない、などであることが分かった。本授業の模擬授業で音楽的な指導法を実践したにもかかわらず、上記の理由で実践しなかったのである。アンケートからも分かるように、ピアノへの不安を抱えている学生（108）、指導法が分からない（84）、歌唱能力（38）、楽器奏法（23）など、音楽的な能力に未だに自信が持てていない現状が把握できる。

しかし、先生の範唱を繰り返すだけで歌を教えていた以前の状態は見られず（過去にはこの様な方法が多くあった）、歌詞の理解やメロディーの教え方を学び、しかも、自分でどのように変えてもいいんだ、と思えたことも記述にあった。どうしても、これまでの固定観念から抜けきらず、これまで受けた教育方法でなくてはならないと思っている学生にとっては、多様な模擬授業

資料7

模擬授業に関するアンケート	
組	番 名前
下記の質問に教えてください（複数回答あり）	
1. あなたは音楽Ⅲの授業内で模擬授業をしましたか	はい・いいえ
2. 他の人の模擬授業は参考になりましたか (はいと答えた人のみ) どんなことが参考になりましたか	はい・いいえ

3. 教育実習Ⅱでは、今回の模擬授業は役に立ちましたか (はいと答えた人のみ答える) どんな点が役に立ちましたか 指導案を作成したこと・先生役で指導したこと・園児役で参加した事・具象物の重要性を感じたこと・その他 ()	はい・いいえ
4. 音楽に関することで教育実習Ⅱで行ったことは何ですか ①ピアノ伴奏 (○ ×) ②手遊び (○ ×) ③楽器あそび (○ ×) ④歌あそび (○ ×) ⑤その他 ()	
5. 責任実習として音楽に関することはしましたか (はいと答えた人) どんな内容でしたか	はい・いいえ

(いいえと答えた人) その理由は何ですか 指導内容が思いつかなかった・園の要望(制作)・音楽は苦手だから・その他 ()	
6. 実習における音楽指導で不安なことは何ですか ピアノ伴奏・うたうこと・楽器奏法・指導法・その他 ()	
7. 保育実習ⅢⅣで音楽に関して不安なことはありますか (はいと答えた人) どんなことが不安ですか ()	はい・いいえ
	以上

を経験したことで、苦手と思っている音楽指導が楽しくなったとの記述もあった。「今回は題材として行わなかったが、いつかやってみたいと思った」、との記述もあった。責任実習の題材として、音楽をすることの糸口になったと言える（資料7参照）。

③ 模擬授業を行う意義

実践後のアンケートでは、自分の実践に関するマイナス面ばかりの記述が多かった。それを読む限りでは、模擬授業を実施する意義はそれほど感じることはできなかった。しかし、全授業後の振り返りアンケートに、模擬授業の記述が多いことに大変驚かされた。実際の実習の責任実習の際に、今回の模擬授業での反省点を活かした、現場にいったら「こうしよう」「ああしよう」の参考になった、などの記述があったのである。このことから、模擬授業の経験は、その後の実

践への手立てとして学生の中にはつながっていることが分かった。子ども役になったことで、どんな話し方が分かりやすいのか、どうしたら子どもを引き付けることが出来るのか、Aさんの場合・Bさんの場合が記憶として残っているのである。他の人のいろいろな指導方法を是非現場で活かしたいと強く思っていることなど、この模擬授業に対する感想が多く書かれていた。これは、授業内での実践時だけでなく、その経験が学生の心に深く残り、次への実践に役立てようとしているのである。経験の連続性を物語っていると言えよう（デューイの経験論）。これらのことから、模擬授業を行う意義は十分ある、と言える。

今回の実践では、とかく目の前で行われる実践結果のみで判断していた自分にとって、本人は失敗だらけの実践と書いていても、それが一人ひとりの心に深く残り、次への実践へ向けての大切な一歩となることを確認することが出来た。

V おわりに

先の厚労省の「保育士養成課程等の改正について（中間まとめ）」（2010）には、保育士養成課程の見直しのため、教科目の精選や科目の単位数の変更に関する改正案が示された。そこには、実習に関する文言も所々にあり、「実習指導の学びを強化させ」「より効果的な実習とするために、養成施設と実習受け入れ施設との連携が欠かせない。」等が記されている。また、平成30年には、新幼稚園教育要領も改訂され、施行の運びとなる。待機児童の問題解消や3～5歳児の幼児教育費や保育費の無償化も実現に向けて検討されつつある。社会全般が、乳幼児の教育・保育の重要性に目を向けているのである。

保育者養成に関わるものとして、より質の高い指導を心掛けなければならないし、養成課程の重要な学びとなる実習も充実したものにしなければならない。音楽を担当するものとして、学生には責任実習で音楽に関する内容を自信をもって行えるよう、さらに具体的で実践的な指導をしたいと思う。

《注》

- (1) 保育士資格を取得するには、養成課程（大学・短期大学・専修学校）にて必要単位を修得して卒業する方法と、都道府県が行う保育士試験に合格する方法がある。後者の場合は、現場での実習が課せられてはいない。
- (2) 実習において音楽的な内容を行う学生が少ないことは、岡本拡子氏もその著「つくってさわって感じて楽しい！ 実習に役立つ表現遊び2——指導案付き——」北大路書房（2007）に著している。「実習で音楽遊びをする学生は少ないと聞いたことがあります」p.31、「略、しかしピアノへの苦手意識からか、音楽遊びやリズム遊びを実習で取り入れる学生は少ないようです。」p.36、と繰り返し述べている。実習にて（自分で指導を行う責任実習のこと）音楽の内容を行わないのは、本実践校だけに

限ったことでは無いようである。

- (3) 筆者は、日本学校音楽教育実践学会第20回全国大会(2015.8)にて、「能動的な音楽表現を考える——保育者養成課程における手遊び曲の編曲を通して——」という題で研究発表を行った。その際の実践結果から、手遊びをする学生が歌うメロディが、いかに音程が不確かで、あいまいなものであるかを指摘した。授業内のアカペラテストでも同様であるが、特に動きが伴う手遊びの場合は、動きに気を取られてメロディに無頓着である場合が多いことが明らかになった。

参考文献

- 河北邦子(2012)「保育者養成における音楽表現指導実践力についての研究Ⅰ——模擬保育の自己・他者評価調査を通して——」山口学芸研究第3号, pp.55-73
- 小島律子(2013)「仮説生成模擬授業による音楽科の授業研究」, 大阪教育大学教科教育学論集特集テーマ, pp.3-4
- 坂本暁美(2015)「音楽を教えることに不安を感じる教師にとってのデジタル教科書の可能性——教員養成課程の学生の模擬授業を通して——」, 四天王寺大学紀要第60号, pp.245-257
- 田中龍三(2010)「音楽科教育法における模擬授業」, 大阪教育大学教科教育学論集特集テーマ, pp.15-16
- 寺嶋浩介, 小清水貴子, 藤山茜(2016)「模擬授業を取り入れた教科教育法における受講者のICT活用指導力の分析」, 日本メディア学会教育メディア研究第22巻(2), pp.21-31
- 宮下俊也, 森長はるみ(2001)「音楽教育専攻学部生の音楽授業観——『中等教科教育法(音楽)』における模擬授業の分析・評価を通して——」, 奈良教育大学教育実践総合センター研究紀要第10巻, pp.51-58
- 牧野利子(2012)「保育者養成課程の音楽指導を考える——音楽Ⅲの授業実践を通して——」, 川口短期大学紀要第26号, pp.129-144
- 牧野利子(2013)「能動的な音楽表現を考える No.6——教育実習に向けての一指導法より——」, 日本学校音楽教育実践学会紀要第17巻, pp.280-281, その他関連資料
- 牧野利子(2017)「能動的な音楽表現を考える No.9——模擬授業における歌唱指導を通して——」, 日本学校音楽教育実践学会学校音楽教育実践論集 No.1, pp.141-142, その他関連資料
- 厚労省(2010)「保育士養成課程等の改正について(中間まとめ)」
- 文部科学省(2014)「幼稚園免許状と保育士資格に関する資格要件の比較」
- 日本学校音楽教育実践学会編(2017)音楽教育実践学辞典
- 日本学校音楽教育実践学会編(2003)学校音楽教育実践シリーズ4 音楽之友社
- J. デューイ著, 市村尚久訳(2015)「経験と教育」講談社
- 明和雅子(2004)「なぜ『まね』をするのか」河出書房新社
- G. リゾラッティ, 柴田裕之訳(2009)「ミラーニューロン」紀伊國屋書店
- 小島律子監修(2009)「小学校音楽科の学習指導——生成の原理による授業デザイン——」廣済堂あかつき

(提出日 2017年9月30日)